



答弁中の中嶋町長

ここが聞きたい!!

一般質問



合屋 伸好 議員

須恵川の行き先 災害防止と自然保護のジレンマがある

問
総延長六・七キロメートルの須恵川に設置された七つの堰（いせき）が四十年という期間を経て、改修の時期を迎えています。これを待たずに、旅石の新屋敷堰は前回の台風



佐谷仲島地区「水辺公園」

に伴う増水により破損しました。少しずつであれば改修も余儀なくされています。合併問題の渦の中にあつて、先が見づらい時期ですが須恵の方針の一つは、人と自然が共生する町です。

この機会に河川の見直しを二項目提案します。河川敷に蛸が飛び交い、心休まる川を思い描き「川の中に川」を子ども達が遊べて、なお生態系を守るために「魚道の設置」を

ジェネリック医薬品に対する町の対策 他の自治体と同一歩調で

問
厚生労働省は、新薬と有効成分が同じで価格が安いジェネリック医薬品の普及を促進するため、医師が処方する際に今までは新薬が標準でありましたが、今後は後発品に標準転換する方針で、二〇二二年度までに現在の二倍程度に使用量を増す計画です。六月にまとまった骨太の方針では、後発品の割合を二〇二二年度までに三〇%以上に目標を打ち出しています。今後は、処方箋様式が改められ新薬を選ぶ場合は、医師が理由を処方箋に明記する方向で検討され、二〇〇八年度より実施を目指しています。町の対策は。



荒木 敏光 議員

答 中嶋町長
確かに医療費を削減していくために、ジェネリック医薬品が同じ成分・同じ効力で、また価格が安いということであれば使っていただくのは当然のことと思います。厚生労働省の基準、あるいは県と市等と同一歩調で行っていきたくし、またそれ以上ということも考えてはいますが、医師会等との関係上あまり先頭に立つて旗を振るといふのは非常に今のところ厳しさがあります。医師会の先生方とお話をしながら、また郡の担当課長会等情報をとりながら今後具体的に検討していきたいと思っております。

若杉の森野球場の防球ネット設置 今のところ考えていない

問
須恵町には中学生硬式野球部がありますが、日頃の練習場の確保に苦勞されているようです。若杉の森野球場は、昼間空いた状態が多いと聞いておりまし、昼間使用することで利用率も上がると思われれます。野球場は軟式用グラウンドのため、硬式野球使用の際は危険が伴いますので、安全のためには外周道路に防球ネットの設置が必要と思われれます。散歩の方も安心です。野球を愛する少年達のため、安全で安心して利用できる施設となることをお願いします。

答 中嶋町長
当該硬式野球部については、教育的な配慮から町内中学校の部活動と同じ条件の中で見てきていますが、本来は軟式球場のため硬式をやるべきではないわけで、非常に難しい選択の中で許可しているところです。万全な球場、万全な設備があるにこしたことはないわけですが、投資効果等考えると非常に無駄な投資になるといふことで軟式野球場を建設していただきますので、防球ネットをこれ以上高くしようという問題については、今のところ考えていない状況です。教育的配慮というのはそのグラウンドに即した工夫と、皆で安全を確保してやっていくというのが教育ではないでしょうか。

答 中嶋町長
須恵川の整備について、須恵川は県営河川でありその事業を行うのは基本的に県の指導下ということになります。佐谷仲島地区に川とのふれあい整備事業ということで水辺公園を、若杉の森運動公園入口のところには郷土の水辺公園ということになるので、いずれもこの県の事業の中に併せて町も維持管理という形で整備に携わってききました。須恵川には、転倒堰が七基あり川の中に川をというところになるとそういったことができる場所は、佐谷の仲島地区から上流側しかありません。また、蛸が飛び交う川の整備ということになると、これも場所的に限られてきます。蛸が生息するためには、砂があったりカヤがあつたり、カワナが生息する環境が必要です。現在、川床が非常に浅

くなってきており県に砂上げ作業をお願いしていますが、砂上げ作業をするも蛸は飛び交いませぬ。河川を整備すると、きちんと災害から守られる、しかし自然環境からすると本来の川の役目がおかしくなるといふようなジレンマがあります。魚道について、堰の改修時に併せてということですが、全面改修時には可能だが、一部改修時には難しいという結論です。全面的に改修しようというところになれば非常に多額の費用がかかります。今、現実問題として多額の費用を投資してやらなければならぬのかという緊急性の問題、行政施策の順位の問題として、そういった思いは気持ちの中ではありますけれども、今現実問題としてそれを踏み切れないということになります。